



Via Latina 22

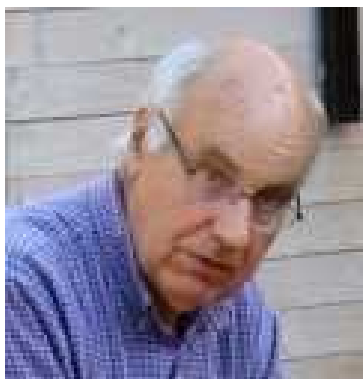
2019年12月 285号

総本部よりのお知らせーマリア会

チリの新地区長任命

総長評議員会は、2019年12月12日に始まる2年間の臨時任期のために、チリ地区長としてJosé María Arnaiz師を任命しました。

今年7月の会議でCLAMARが始めたプロセスを考慮して、CLAMAR内で、またこのゾーンの他の行政単位との話し合いで、再構築行動計画を準備するという特別任務をもつこの限定された期間のために、Jose María師を指名することで充分であると総長評議員会は考えました。このプロセスは定款の変更を必要とします。



José María師は信仰の精神とマリア会への奉仕の精神でこの任命を快諾しました。総長評議員会を代表して、彼の前向きな姿勢に対する私たちの感謝と、この地区を活性化し導く彼の能力への私たちの信頼を表明したいと思います。

またBro. José Pascualの任期終了にあたり、地区長としてのこの数年間の奉仕、またチリにおけるマリアニスト宣教活動への奉仕に対しても、総長評議員会は感謝申し上げます。

総長評議員会のイタリア訪問

この11月に2週間あまり、総長評議員会はイタリア地区を訪問しました。この訪問はローマのサンタ・マリア学院で行われた総長評議員会と地区評議員会の恒例の会議で始まりしました。それから、総長評議員会のメンバーは、全共同体、事業体、そして全修道士を訪問出来るよう、地区で準備された日程に従って2人ずつペアで訪問しました。



マリア会のMichael McAward士とAndré-Joseph Fétis師が
“シャミナード師”ケーキをカットする

ローマのサンタ・マリア学院での教育事業に加え、この地区は幾つかの小教区、2つの聖地そして一つのユースセンターを有しています。更にこの地区の様々なメンバーは多様な形の個人的奉仕に従事しています。この地区はまたアルバニアに創設体を持っていますが、来年半ばにそれを閉じる予定になっているので、訪問はされませんでした。

私たちの多くの古い行政単位のように、イタリア地区は会員の高齢化と、宣教活動に参加することの困難さに直面しています。会員たちは現在、全ての活動を継続するのに十分な修道者を有しているかどうか、そして彼らの将来の宣教的な現存をどのように構築するかを決定するための識別を行っています。同時に、総長評議員会はなお、奉仕活動における継続した有意義な現存の可能性、および修道者間の兄弟的交わりを造り出すための可能性を認識しています。この地区は、他の分野と同様その教育活動において、奉献した信徒の協力者から助けられています。

この地区の兄弟たちのために祈りましょう。彼らがイタリアにおけるマリア会の長い伝統に従って、信仰と奉献した宣教師として留まりますように。



Pablo Rambaud師（右）とスカルダフェッコ共同体のメンバー

重要な助言

警告！



幾つかの行政単位が最近、マリア会の他の行政単位のメンバーを装った小切手や手紙など本物に見えるものを使った金融詐欺に狙われました。

しばしば、非常に多額の小切手が、一見したところ一つの行政単位から他の行政単位に、受け取り行政単位の銀行口座に預け入れるようにとの指示をもって送付され、それから、その金額の疑わしい発送人への移転の手続きが、見た目は本物だが偽りの電子アドレスを使用して願われています。

それらの資料はDHLやFedExのような正規サービス業者を通して実際に受け取られます。これらは詐欺です！まずは関係するマリア会員に直接コンタクトをとり、その依頼が本当かどうかを確かめることなしに、指定されたe-mailアドレスに応答することを含めて、どんな行動もとらないよう強くお願いします。マリア会国際名簿のテーター、また、過去の名簿を処分する時も含めて、安全に保つための注意を怠らないようお願いします。

第2回マリア会ヨーロッパメンバー会議



CEM会議の参加者たち

数年前、ヨーロッパマリアニスト協議会（CEM）は欧州行政単位のマリア会のメンバー間の兄弟愛と相互援助を築く試みとして、フランスのルルドで修道者たちの会議を開催しました。これは皆にとって素晴らしい経験となり、その評価の中でこのような会議が将来持たれるよう勧められました。こうして、先の2019年10月に第2回目の会議が開かれました。今回はスペインのEl Escorialにて117名の修道者が参加しました。総長評議員会はこれら2つの会議に出席しました。

この集会は、CEMによって任命され第35回総会のテーマと精神を十分に生かすよう努めたチームによって計画され実行されましたが、この第35回総会は単に私たち会員をより世界的な兄弟関係に向かわせるだけではなく、“世界における、また世界のための預言者的証人”となるよう呼びかけています。（第35回総会文書#30）。

丸2日間と半日の二日間、ヨーロッパの会員たちは共に祈り、考察し、リラックスした時間を持ち、欧州におけるマリア会の宣教をより強化し、継続的なものとするための関心と見解を分かちあいました。多様な発表が、あるものは修道者自身から、また他のものは招待された信徒マリアニストや私たちの事業の協力者たちからなされ、それらは参加者たちが考察に焦点を当てて役に立ちました。いくつかの発表は、例えば若者と召命司牧、私たちの活動における養成のための支援ネットワークの創設、そしてマリアニスト家族の他の枝の宣教活動など、現在進行している新たな取り組みについて、修道者たちの意識を高めるよう計画されていました。勿論、食事時の非公式な時間、グループでの討議、そして祈りの時間は、私たちが言語と行政単位を超えて分かちあう兄弟的な絆を強めました。

最後の11月3日（日）に、グループ全体は日曜ミサ聖祭で、またこの機会のために用意された祈りで、マリア会教育200年周年を祝いました。

私たちはCEMと、この機会を重要で素晴らしい経験とするに際して、この行事を計画することにその仕事と配慮のすべてを捧げてくださった皆様に感謝いたします。



亡くなった兄弟たちを記念する

マリア会教育200年祭式典に関する反響（反応）

私たちは1819年にフランスのポルドーで始まったマリア会最初の学校創設200周年をまだ熱心にお祝いしています。

2019年11月3日以来、世界中の多くの事業体や共同体はこのイベントを盛り上げるため様々な行事を計画してきました。これらの場所で、会員は生徒や両親および事業体のスタッフと共に立ち止まって感謝することができ、感動して私たちの教育的使命を神のみ手に委ねました。

いくつかの行政単位はこの記念式典を既に終わっており、他の行政単位では、未だ計画段階にあります。これらの祝典に関し既に受けとっている幾つかの反響を皆さんと分かちあいたいと思います。これを見るには marianist.org をクリックして下さい。

アリアンス・マリアル（AM）からの重要ニュース



11月19日に受け取ったAMに関する全マリアニスト家族のための重要ニュースをお知らせします。

在俗会としての最近の正式承認に従って、AMは新たな総長評議員会を選出したところです。前のフランスAMの責任者であったMarie-Laure JEANが新総長になり、長年AMをリードしてきたChristiane BARBAUXの後任となります。

アリアンス・マリアルの新評議員会のメンバー

総責任者：

－ Marie-Laure JEAN、フランス、第一期5年

総評議員：

－ Sonia GALARZA、エクアドル、主席評議員、第一期5年

－ Françoise-Romaine LISSANA、トーゴ、第一期5年

－ Marie-Béatrice MWENZE、ベルギー、第一期5年

私たちは承認に向けてのこの長い道のりについて感謝しMarie-Laureと新たな評議員にこの重要で素晴らしい使命において私たちの協力と兄弟的祈りを約束します。

これは、私たちマリアニスト家族のこの枝の召命のために祈り、またこの特別な召命を教会の中でより広く知らせるのを躊躇しない特別な機会です。



総本部共同体とマリアニスト国際神学校共同体は
全ての兄弟姉妹たち、彼らの協力者たち、
そして彼らの家族に対して
ご生誕の喜びと幸多い新年のご挨拶を申し上げます。

最近の総本部通信

- 訃報：33号－35号

総本部日程

- 12月7－10日：マリア会総長André-Joseph Féti師
ポーランド、ピアストウのマリアニスト共同体を訪問
- 12月12－23日：霊生局長Pablo Rambaud師 ケニアでカリスマについての会議に出席
- 12月15日－1月7日：教育局長 Maximin Magnan士 トーゴでの教師養成会議とケニアでのカリスマ会議に出席

メールアドレス変更

- Santino Pugliesi(IT): santinopugliesi39@gmail.com
- André Brissinger(FR): andre.brissinger1930@orange.fr